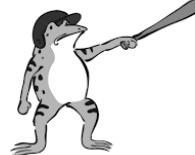


## 我ら 50 期 ここにあり

### 感じたい感情を先に感じて奇跡を起こす



未来を照らすものには4つの観点があります。1つ目は、自分に対して形ある（有形）ものを得ることです。例えば、志望校合格、お小遣いがもらえるなどです。2つ目は自分に対して形ない（無形）ものを得ることです。例えば、自分に対する自信や誇りを持ちたいと思うことです。3つ目は、社会や他者に対して有形なものを得ることです。例えば、優勝することでチームメイトと喜び合う、合格することで家族も喜んでくれてご飯を食べに行く、などです。4つ目は、社会や他者に対して無形のものを得ることです。例えば、賞を取ることで大阪市の吹奏楽部員にやる気や元気を与えられる、ラグビーW杯日本代表の活躍で、被災者の方に希望と勇気を届けたいということです。自分にとって、自分の周りの人々にとって価値のあるものを手に入れるためには、見えない世界の無形に目を向けましょう。成功した時の「喜びの感情」を先取りして、普段からそのことを感じながら努力すると、モチベーションが継続して、爆発的にエネルギーが高まって自分の目標に到達します。感情や気持ちを高めてスイッチを入れましょう！



### もう一歩踏み込んでみる

「そこそこ」「まあまあ」ではいけません。あと17日だけど、友達や先生との関係も、学習やスポーツの能力も、努力することや頑張ることに、もう一歩踏み込んで高めたり広げたり深めたりしてほしいと思います。それ以上やらないことや、それ以上は考えないことは楽なのですが、この面倒くさいことを今の自分で一歩踏み込んでやらないと、安く定まってしまうし、守りに入って、どっぷり何かにつかって、誰かに助けてもらってばかりいたら、本当に勝負がかかるときには何もできない人間になります。自分の人生を、自分で考えて、自分で楽しんで、自分のために生きて欲しいと思います。

### 鬼を考える⑦ ～泣いた赤鬼～ あらすじ



とある山に、人間と友達になりたいと願っている赤鬼が暮らしていました。「心優しい鬼の家です。どなたでも遊びに来てください。」と書いた立札を家の前にあげていましたが、誰一人として立ち寄ってはくれません。落ち込んでいる赤鬼に、友達の青鬼がやってきてこんな提案をします。「自分が人間の村へ行って大暴れし、そこへ赤鬼がやってきて青鬼をこらしめる。そうすれば赤鬼が優しい鬼だとわかってくれる」というものでした。作戦は無事に成功し、それ以降、赤鬼の家には人間たちが遊びにくるようになります。赤鬼は楽しい日々を過ごすことができました。しかし、あの日以来、1度も青鬼の姿を見ていません。気になった赤鬼が青鬼の家を訪ねてみますが、家の扉は締め切られ、誰かがいるような気配もないのです。扉のわきの張り紙には、「赤鬼君、このまま僕と友達でいると、君の悪い鬼だと思われてしまう。僕は旅に出る。君のことは忘れない。いつまでも友達です。」と書いてありました。赤鬼は何度もその手紙を読み、涙を流したそうです。

### お金がたくさんあれば、人は幸福になる？



幸せに生きるために必要なものはなんなのでしょう？まず思いつくのはお金かもしれません。働いて多くのお金をもらえるというのはうれしいことですし、お金があれば、欲しいものがたくさん買えて幸せを感じられるでしょう。しかし、意外なことに、人は、お金がたくさんあれば、それに応じて幸せの度合いが高くなるわけではないようです。「人々の幸福感と所得について」という内閣府の調査によると、年収が400万円の人と800万円の人の幸福感にはほとんど差がないという結果が出ました。年収が2倍になったとしても幸せは2倍にならないのですね。お金をたくさん稼ぐ人は、仕事が忙しくなる傾向があります。仕事に費やす時間が多く、家族と一緒に過ごす時間や自分の趣味に費やす時間が減ってしまい、このようなデータ結果が出たのではないかと考えられます。同時に行われた調査では、「十分なお金がある」と同じぐらい、「自分や家族が健康であるかどうか」「家族の関係が良好かどうか」が、幸せを感じるうえで重要なと考える人が多いことがわかりました。「お金がたくさんあれば幸せになれる」ということではなさそうですね。